

2/13 ルカの福音書 10 章 38-42 節「必要なことは一つだけ」

小池 宏明 牧師

今日の箇所は、とても有名な出来事で、ルカの福音書だけが記している。主イエス様は、マルタとマリアの姉妹をととても愛しておられた。(ヨハネ 11 章) 彼女たちには兄弟のラザロがいて、エルサレムから 3 キロほどのベタニアと言う村に住んでいた。

*一人ひとり、主を愛することが最も必要なこと

さて、ある日、イエス様と弟子たちを家に招いたマルタは、慌ただしく、いろいろなもてなしをするために、心が乱れていた。一方、姉妹のマリアは、他の弟子たちと一緒に、イエス様のすぐ近くで御ことばに聴き入っていた。心が落ち着かないマルタは、主イエス様の御許にやって来て、文句を言った。40 節「主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。私の手伝いをするように、おっしゃってください。」マルタは、イエス様が集まっている人々にお話をしている最中に、割って入って、イエス様に対して不満をぶつけているように見える。マルタは、かなり感情的になっていて、怒りと不平に満ちた心の状態であったようだ。主イエス様は、そんなマルタに、やさしく、諭すように語り掛けておられる。(41、42 節) 主イエス様は、マルタの熱心な奉仕を見ておられた。そして、マルタの心の内をよく知っておられた。「あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。」その一方で、マリアのこともよく知っていて、マリアを擁護している。「マリアはその良いほうを選びました。」マルタもマリアも、主イエス様から愛された者として、主イエス様を心から愛して、心から仕えて生きたいと願っていたことだろう。マルタは、イエス様と弟子たちを家に迎え入れて、おもてなしをすることを選び取った。そして、マリアも、主イエス様を愛して、主の御許で熱心に御ことばに聴くことを選び取ったのだ。

*自ら良いほうを選んで仕える

私たちは、一人ひとり、それぞれ自分が良いと思うことで、主イエス様を愛して、主に仕えて、生きることが出来る。奉仕の内容に優劣はない。しかし、私たちも、時に、マルタのように、心が乱れて、思い煩ってしまうことがあるかもしれない。マルタは、自分のしている奉仕が、一番大切なことだと思って一生懸命頑張ったのだ。それは決して悪いことではない。しかし、初めの思いから離れてしまった時、立ち止まって、主の御心を求める信仰と自らの心の動機を確かめることが大切なのではないだろうか。